

第4学年3組 学級活動指導案

北九州市立青葉小学校

1 題材名 「いろいろな気持ちを考えよう」

2 題材設定の理由

○理由

本学級の児童は、これまでに対人スキルアップとして「いいとこさがし」「あったか言葉をふやそう」などの活動を通して、互いを認め合い、普段使っている友だちへの言葉を見直す学習を行ってきた。しかし、ちょっとしたことでトラブルになったり、相手のことや状況よりも自分の思いを先に伝えようとしたりする態度が見られる。1学期に行ったQUでは、31人中15人(48.4%)の児童が学級生活満足群、9人(29%)が非承認群、2人(6.5%)が侵害行為認知群、5人(16.1%)が学級生活不満足群に入っていた。半数の児童が今の学級生活に満足を感じている反面、不満足を感じている子どもも多いと言える。特に非承認群が多いことから、「認められている」という意識がまだ低く、そのことが学級の中で気になる状況の要因になっていると考えられる。

子どもたちの自尊意識を高めることや、自分や相手の気持ちを考える力を伸ばすことが必要である。

○題材の特徴

自分の感情を上手にコントロールするためには、いくつかのステップが必要であり、この題材では、その第一歩として感情の種類を意識させ、いろいろな場面、状況によって、いろいろな感情が生まれてくると、同じような状況でも、人によって生まれてくる感情には違いがあることを理解させる。さらに、自分の感情と状況を結び付ける活動を通して、感情をコントロールしようとする力を身に付けさせたい。

○指導に当たって

本題材の学習では、まず表情図に合わせて感情、気持ちを表す言葉を自由に出させ「言語化」させる。

次に、提示した表情図と言葉を意識しながら、具体的な場面で、どんな気持ちになるのか想像させる。そして、それぞれ考えた感情について、全体で確認し合いながら、感情や気持ちを客観的に捉えることができるようにする。

また、同じ場面でも、人によって感じる気持ちや生まれてくる感情に違いがあることにも気付かせ、他者を理解する力も伸ばすようにする。

3 事前・事後の活動計画

事前	本時	事後
「ぼくの木、わたしの木」 友達の得意なことやがんばろうとしていることなどを知り、友達への理解を深める。自分を見つめ直し、自尊感情を高める。	「いろいろな気持ち」 人にはいろいろな感情や気持ちがあり、それにあつた表情もあることを知る。同じ場面でも、人によって感情や気持ちに違いがあることに気付く。	「気持ちのコントロール」 ネガティブな感情(怒りなど)を持った時の身体の状態に気付き、対処する方法を身に付ける。

4 本時の活動

(1) 日時 平成25年10月18日(金) 第5校時 於：4年3組教室

(2) ねらい

人には、その状況によっていろいろな感情・気持ち生まれ、それを表現する言葉や表情があることを知る。また、人によって、同じ状況でも違った感情・気持ちになることがあることも知る。

(3) 準備物

「約束」の紙、表情図、色カード、振り返りシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点
導 入	<p>1 話し合いの約束と本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>約束</p> <p>① 人のきずつくことを言わない。</p> <p>② 聞いたことをうわさ話にしない。</p> <p>③ 人の発言は最後まで聞く。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いの「約束」を確認するため、全員で声に出して読ませる。 ○ 本時の学習は、気持ちにはいろいろあることを知り、その気持ちと表情について考えることを確かめさせる。
展 開	<p>2 気持ち（感情）を表す言葉について考え、その気持ちと表情の結び付きについて話し合う。</p> <p>○ 表情図を提示し、どんな気持ちを表す言葉に合うか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>黄カード…うれしい・楽しいなどのグループ</p> <p>赤カード…怒り・不満などのグループ</p> <p>青カード…悲しい・さびしいなどのグループ</p> <p>緑カード…その他（驚き・困りなど）のグループ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p><めあて> いろいろな気持ちを知ろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の知っている感情を表す言葉をできるだけたくさん発表させる。 ○ どの表情図に当てはまらない気持ちを表す言葉も出させる。（緑のグループ）
	<p>3 提示された場面での気持ちについて考える。</p> <p>場面1 忘れ物をしたことを先生に伝えに行くときに、友達が一緒につきそってくれた場面。</p> <p>場面2 放課後、遊ぶ約束をしていたのに、とつぜん「今日は遊べない」と言われた場面。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当てはまる色カードを選び、気持ちを書く。 ② カードをもとに、グループで話し合いを行う。 ③ カードを黒板に貼る。 ④ 表情図の下に分類された、感情カードを見て、感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際に子供の日常の中で起こりえそうな場면을提示し、その時の気持ちを考えさせる。 ○ 机間指導をしてなかなか書けない子どもに声をかける。 ○ 気持ちと行動を整理して、気持ちに注目するように声かけをおこなう。 ○ 話し合いの中で、なぜその気持ちにしたのか理由も出し合わせる。 ○ 同じ場面、表情でも、人によって違う気持ちを感じることがあることに気付かせるようにする。
ま と め	<p>4 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りシートに感想を書く。 ○ 感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人には、いろいろな気持ちがあることや、人によって感じる気持ちや表情が違うことを共有できるようにする。